

モーセ④

□モーセの信仰の手本

しかし、モーセは主の前で訴えた。「ご覧ください。イスラエルの子らは私の言うことを聞きませんでした。どうしてファラオが私の言うことを聞くのでしょうか。しかも、私は口べたなのです。」(出6:12)

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。3つの約束のうち、土地と子孫の約束はイスラエル民族だけに対するものであるが、これらを通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
2. 3つ目の祝福の約束は、イスラエル民族だけでなく、全人類に関係する。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」。その祝福とは、アブラハムが信じた**復活**である。アブラハムの信仰にならい、神には死者を生かす力があると信じるなら、全人類、だれであっても神から復活の祝福を受け取ることができる。
3. アブラハム契約が必ず成ると信じる信仰は、復活を信じる信仰でもある。この信仰が、アブラハムからイサク、そしてヤコブ、さらにヨセフへと継承された。
4. エジプト寄留・・・ヤコブは、ヨセフの功勞によりエジプト王から国賓の待遇を受けて、家族とともに飢饉を避けてエジプトに寄留することになった。神はヤコブに、恐れずエジプトへ行くように命じた。なぜなら、かつて神はアブラハムに、【子孫たちが他国で寄留者となり、400年間、奴隷となる】(創15:13)と預言していたからである。実際、寄留開始から30年でヤコブの子たちは移動の自由を失い、それから40年後にヨセフは死んだ。
5. モーセの両親・・・奴隷状態になってから320年後、モーセが生まれた。モーセの父はアムラム、母はヨケベデ(出6:20)、彼らはエジプト王によるイスラエル民族迫害の中で、命の危険を冒してモーセを隠した。アブラハム契約の約束に基づき、神が必ずエジプトから救い出してくださると信じ、生まれた子どもに神の使命があることを啓示されたからであった。彼らは信仰によって、エジプト王を恐れない勇気を得たのであった。
6. モーセ・・・①はモーセが生まれてから40歳まで、「個人的な信仰」の手本を見た。モーセもまたアブラハム契約を信じる信仰によって、勇気と決断を發揮した。彼は「ファラオの娘の息子」と呼ばれるより、神の民であるイスラエルと苦しみを共にすることを選んだ。②から「神の使命を行う者としての信仰」を見ている。その第一は、忍び通す信仰であった。自分の判断や力ではなく、神の時と神の方法を待ち続ける信仰であった。第二は、自我が砕かれて、神の時と神の方法を受け取る信仰であった。

今回は第三、とことん自分の力を頼りにせず、神に頼る信仰である。それは暗い自己否定ではない。自分に栄光を帰すことなく、神の働きがまさに神のわざであることを見るためである。

□モーセ④ 神の使命を行う者としての信仰 その三 神に頼る信仰

1. モーセ 80 歳、神の山ホレブで神の命令を受けた後（出 4：18～26）

(1) しゅうとイテロのもとに帰り、許しを受け、家族を伴ってエジプトに向け出発
4：18～20 そこでモーセは行って、しゅうとイテロのもとに帰り、彼に言った。「どうか私をエジプトにいる同胞のもとに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているかどうか、見させてください。」

イテロはモーセに言った。「安心して行きなさい。」

主はミディアンでモーセに言われた。「さあ、エジプトに帰れ。あなたのいのちを取ろうとしていた者は、みな死んだ。」

そこでモーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せて、エジプトの地へ帰って行った。モーセは神の杖を手を取った。

(2) 主はモーセに予告：ファラオはかたくなに拒む。結末は長子の死。

4：21～23 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトに帰ったら、わたしがあなたの手に授けたすべての不思議を心に留め、それをファラオの前で行え。しかし、わたしが彼の心をかたくなにするので、彼は民を去らせない。そのとき、あなたはファラオに言わなければならない。

主はこう言われる。『イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。わたしはあなたに言う。わたしの子を去らせて、彼らがわたしに仕えるようにせよ。もし去らせるのを拒むなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの長子を殺す。』

(3) 途中で、主がモーセに会い、彼を殺そうとした。

4：24～26 さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。主がモーセに会い、彼を殺そうとされた。そのとき、ツイボラは火打石を取って、自分の息子の包皮を切り取り、モーセの両足に付けて言った。「まことに、あなたは私には血の花婿です。」すると、主はモーセを放された。彼女はそのとき、割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのである。

- 割礼は、アブラハム契約のもとにあるイスラエルの民であることのしるし。無割礼の男は民の中から断ち切れなければならない（創 17：10～14）
- 生まれた子は8日目に割礼を受ける。それをしないのは親の責任。二人の息子のうち、おそらく次男が無割礼であった。

2. 神の山ホレブで兄アロンと再会し、二人でエジプトへ。イスラエルの長老たちを集めて、アロンは、主がモーセに語られたことばをみな語り、民の目の前でしるしを行った。民は信じた。そして、民は、ひざまずいて礼拝した（出4：27～31）
3. ファラオとの初めての面会とその結果（出5：1～21）
 - (1) モーセとアロンからの要求：荒野へ三日の道のりを行かせて、私たちの神、主のために祭りをさせてください（5：1、3）
 - (2) ファラオの考え：ヘブル人たちは数が多くなって気が強くなり、二人の男に扇動されて、労役をやめようとしている。我々は断固とした態度で臨もう。労役をさらに重くする。藁の配給をやめ、自分たちで藁を集めるという作業を加える。日々納品させるれんがの量はこれまでと同じ（5：2、4～11）
 - (3) 民の負担増
5：12 そこで民はエジプト全土に散って、藁の代わりに刈り株を集めた。
 - (4) れんがの量が減ったので、民のかしらたちはエジプト人の監督たちに打ちたたかれた（5：13～14） 注：民のかしらたちを立てたのは、エジプト人の監督たち
 - (5) 民のかしらたちはファラオに直訴するも、訴えは却下された（5：15～19）
 - (6) ファラオのところから出て来たかしらたちを出迎えたモーセとアロンに対して、かしらたちは、次のように言った。
5：21 「主があなたがたを見て、さばかれますように。あなたがたは、ファラオとその家臣たちの目に私たちを嫌わせ、私たちを殺すため、彼らの手に剣を渡してしまったのです。」
4. モーセと主との問答、主のことばを民に告げたが民は拒否（出5：22～6：9）
 - (1) モーセの質問
5：22 それでモーセは主のもとに戻り、そして言った。「主よ、なぜ、あなたはこの民をひどい目にあわせられるのですか。いったい、なぜあなたは私を遣わされたのですか。私がファラオのところに行って、あなたの御名によって語って以来、彼はこの民をしいたげています。それなのに、あなたは、あなたの民をいっこうに救い出そうとはなさいません。」
 - (2) 主の応答
6：1 主はモーセに言われた。「あなたには、わたしがファラオにしようとしていることが今に分かる。彼は強（し）いられてこの民を去らせ、強いられてこの民を自分の国から追い出すからだ。」
 - (3) 主からイスラエルの民へのことば
6：2～8 神はモーセに語り、彼に仰せられた。
「わたしは、主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神とし

て現れたが、主という名では、彼らにわたしを知らせなかった。

わたしはまた、カナンの地、彼らがとどまった寄留の地を彼らに与えるという契約を彼らと立てた。今わたしは、エジプトが奴隷として仕えさせているイスラエルの子らの嘆きを聞き、**わたしの契約を思い起こした。**

それゆえ、イスラエルの子らに言え。

『わたしは主である。

わたしはあなたがたをエジプトの労役から導き出す。あなたがたを重い労働から救い出し、伸ばされた腕と大いなるさばきによって**贖（あがな）う。**

わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトの苦役（くえき）から導き出す者であることを知る。

わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地にあなたがたを連れて行き、そこをあなたがたの所有地として与える。

わたしは主である。』

➤ 「わたしの契約」＝アブラハム契約

➤ 「贖う」＝代価を払って買い戻す（くわしくは、次回）

(4) モーセは民に主のことばを語ったが、民は拒否

6：9 モーセはこのようにイスラエルの子らに語ったが、彼らは失意と激しい労働のために、モーセの言うことを聞くことができなかった。

5. 主の命令とモーセの訴え（出6：10～7：13）

(1) 主の命令とモーセの訴え（出6：10～13）

6：10～11 主はモーセに告げられた。「エジプトの王ファラオのところに行って、イスラエルの子らをその国から去らせるように告げよ。」

6：12 **しかし、モーセは主の前で訴えた。「ご覧ください。イスラエルの子らは私の言うことを聞きませんでした。どうしてファラオが私の言うことを聞くでしょうか。しかも、私は口べたなのです。」**

6：13 主はモーセとアロンに語り、イスラエルの子らをエジプトの地から導き出すよう、イスラエルの子らとエジプトの王ファラオについて彼らに命じられた。

(2) アロンとモーセの系図（出6：14～27）

(3) 主の命令とモーセの訴え（出6：28～30）

6：28～29 主がエジプトの地でモーセに語られたときに、主はモーセに告げられた。「わたしは主である。わたしがあなたに語ることをみな、エジプトの王ファラオに告げよ。」

6：30 **しかし、モーセは主の前で言った。「ご覧ください。私は口べたです。どうしてファラオが私の言うことを聞くでしょうか。」**

(4) 主の応答（出7：1～5）

7：1～5 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたをファラオにとって神とする。あなたの兄アロンがあなたの預言者となる。あなたはわたしの命じることを、ことごとく告げなければならない。あなたの兄アロンはファラオに、イスラエルの子らをその地から去らせるようにと告げなければならない。わたしはファラオの心をかたくなにし、わたしのしるしと不思議をエジプトの地で数多く行う。しかし、ファラオはあなたがたの言うことを聞き入れない。そこで、わたしはエジプトに手を下し、大いなるさばきによって、わたしの軍団、わたしの民イスラエルの子らをエジプトの地から導き出す。わたしの手をエジプトの上に伸ばし、イスラエルの子らを彼らのただ中から導き出すとき、エジプトは、わたしが主であることを知る。」

(5) エジプト脱出の全体像（出7：6～7）

7：6～7 そこでモーセとアロンはそうに行った。主が彼らに命じられたとおりに行った。彼らがファラオに語ったとき、モーセは80歳、アロンは83歳であった。

(6) ファラオが心をかたくなにするの確認（出7：8～13）

7：8～9 また主はモーセとアロンに言われた。「ファラオがあなたがたに『おまえたちの不思議を行え』と言ったら、あなたはアロンに『その杖を取って、ファラオの前に投げよ』と言え。それは蛇になる。」

7：10 モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。

7：11～12 そこで、ファラオも知恵ある者と呪術者（じゅじゅつしゃ）を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師（じゅほうし）たちもまた、彼らの呪術（じゅじゅつ）を使って同じことをした。彼らがそれぞれ自分の杖を投げると、それは蛇になった。しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑（の）み込んだ。

7：13 それでもファラオの心はかたくなになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。

□モーセとアロンが杖を蛇に変えるしるしを見せても、ファラオの心はかたくなで、民を去らせることを拒みました。いよいよ、今回は主がエジプトにさばきを下す段階に進みます。本日の話し合いのテーマは、次です。モーセは、エジプトに来てからも、否定的なことを言いました。「ご覧ください。イスラエルの子らは私の言うことを聞きませんでした。どうしてファラオが私の言うことを聞くのでしょうか。しかも、私は口べたなのです。」

モーセは不満を述べて、神の命令を拒んでいるのでしょうか？ それとも神の使命を行う者として必要な態度でしょうか？